

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援 こどもトレーニングひろば		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 27日		令和8年 3月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和8年 2月 1日		令和8年 2月 15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(作業療法士、言語聴覚士など)による根拠に基づいた支援内容の提供	専門職ならではの「根拠に基づいた支援」を意識して取り組んでおります。お子様一人一人にあった支援を考え提供していきます。	まだまだ経験としては浅いところがあるため、今後もたくさんさんの経験をしながら支援員も一緒に成長していきたいと思っております。
2	放課後等デイサービスとの多機能型であるため、当事業所をご利用のお子様に関しては介入するのにとでもスムーズであること	学校の様子と事業所での様子をどちらも見ることができるため、お子様の社会的スキルを確認している。	当事業所をご利用でなくとも情報を集め支援していけるようなスキルを身につけていくことが必要と考えています。
3	関係機関(園、学校など)との密な連携	関係機関の施設様とは信頼関係が必要と考えています。そのため、細かいことでもしっかりと報告していきたいと思っております。また、情報共有の時間をしっかりと確保することも意識しております。	情報共有の時間の確保が難しい時があるためオンラインなどのICTの導入を検討していきたいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援員の人数が少なく支援が必要な児童にまで手が届いていない	利用児数の確保が課題となっている。利用児数が増えてきた際には支援員の増員も検討していきたいと考えている。しかし、誰でも支援員として考えるのではなくしっかりと経験と知識が身についたからの訪問となる。	業務効率化に取り組むことは必要。新しい支援員が入ってきた際の教育システムの確立が必要と考えています。
2			
3			